

文部科学省

「学事暦の多様化とギャップタームに関する検討会議」



早稲田大学における 4学期制 (Quarter制)導入の 狙いと今後の展望



2014年3月24日(月)

田中愛治

早稲田大学理事(教務部門総括)

1

4学期制導入の目的と目標

- (1) 在学生のサマー・スクールへの短期留学
- (2) 海外の学生の早稲田のサマー・スクールへの参加
- (3) 海外の教員が早稲田のサマー・スクールで教える
- (4) 早稲田から留学した学生の復帰をスムーズにする

2

アメリカの学期制と秋入学制

★アメリカにおけるセメスター制とクォーター制:

- セメスター制: 秋学期9月初-12月初旬
春学期= 1月初旬-5月中旬 (16週間+試験週間)
夏学期(サマースクール)= 6月初旬-8月中旬
- クォーター制: 1年を4つに分けている
秋学期=9月末-12月中旬, 冬学期=1月初-3月末,
春学期=3月末-6月初旬, 夏学期=6月半-8月半

★秋入学制度: 各学年度が9月始まりで6月卒業
(3年+9ヶ月で学士号を授与される)

3

秋入学制とアメリカ型4学期制の壁

★秋入学制度だけでは解決できない点:

- 日本での秋入学では、2月の入試期間、3月末の高校生の卒業を考慮すると2学期制になる。
秋学期9月～1月末, 春学期4月～7月末
- 欧米のサマースクールと合致しない。
- アメリカのクォーター制をそのまま導入すると、6月初旬からのサマースクールには合致するが、2月の入試期間をまたいで冬学期をおくことになり、現実問題として実施不可能。

4

早稲田型クォーター制(4学期制)

新カレンダーのイメージ														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月			
従来カレンダー	4/6					8/2	9/26					12/21	1/6	2/5
	← 春学期(16週) →				← 秋学期(16週) →									
セメスター制	春学期				夏季休業期間		秋学期							
通年制	春学期				夏季休業期間		秋学期							
新カレンダー	4/6	6/7		6/8	8/2	9/26	11/24		11/25	12/21	1/6	2/5		
	← 春学期前半(8週) →		← 春学期後半(8週) →		← 秋学期前半(8週) →		← 秋学期後半(8週) →							
クォーター制	春学期(前半)		春学期(後半)		夏季休業期間		秋学期(前半)		秋学期(後半)					
セメスター制	春学期				夏季休業期間		秋学期							
通年制	春学期				夏季休業期間		秋学期							

5

早稲田大学4学期制導入の経緯・目的

- 2008年秋に検討開始／2012年春に導入決定
- 2009年3月初にStanford, UC Irvineでヒアリング
- 日本の小学校・中学・高校の卒業時期にも対応
- 欧米だけでなく、オセアニアにも対応
- 学生を海外のサマースクールに送り出せる
- 海外の学生をSummer Sessionに受け入れる
- 海外の教員を短期間招聘して教育を共にできる

6

早稲田における 4学期制の意義と活用例

- 学部・研究科・学科目別の異なるニーズに対応
—歴史学・哲学vs.語学・コンピュータ実習etc.—
- 学生の集中度を増す
- 教員の負担を増やさない／研究時間の確保
- 教員も集中して教えるので教育効果が高まる

★留学修了者の早期の復帰

- 9月留学の修了者が春後期(6月～)に履修可能
- 2月留学の修了者が秋後期(11月下旬～)に履修可能

7

クォーター制の導入 ～考え方

- 通年制、セメスター制と併存する形で、クォーター制を導入する。
- 学籍異動(休学・留学)や科目登録、成績発表等は現行の半期単位(年2回)の考え方とする。
- 必修科目や演習、履修要件を持つ科目等、クォーター化に適さない学科目は現行通り配当する。8週間で集中的に講義を行うことで教育効果が高まると考えられる学科目(講義科目や語学科目、オンデマンド科目等)から順次2013年4月以降に導入していく。
- 1科目を2科目に分割する方法と、週時数を2倍にして期間を半分にする方法でクォーター化を導入する。
- クォーター制導入にあたり各箇所での総授業時間数は増やさない。

8

早稲田大学におけるクォーター科目

• 2013年度

設置箇所数		設置科目クラス数
学部	7	48
大学院	11	387
センター等	2	30
合計	20	465

• 2014年度

設置箇所数		設置科目クラス数
学部	8	89
大学院	16	607
センター等	3	137
合計	27	833

9

Waseda Summer Session 2014

- **実施期間** 2014年6月21日(土)～7月17日(木)【春後期集中・4週間】
- **実施場所** 早稲田キャンパス
- **提供科目:** 日本の①政治②ビジネス③歴史④文化 各入門編
- **科目登録:** 2科目選択+日本語集中プログラムから1科目履修可能
- **教員数:** コーディネーター1名、授業担当10名(国内7名+海外招聘3名)
- **学生スタッフ** 8名雇用(TA 4名+課外活動補助4名)
- **参加学生** ① 外国大学在学学生(学部生)ー成績証明書発行・単位認定
② 長期留学直後の本学学生等ー単位認定
- **出願条件** ① 海外大学在学中の学生 / GPA2.5以上 / TOEFL80点(550点) 以上
② 2013-2014期に留学中の本学学生等
- **選考** 有(志望理由書)
- **定員** 100名(海外学生80名+早大生20名)
- **6/21(土)** オリエンテーション
- **7/12(土)、13(日)** フィールドトリップ(鎌倉・箱根予定)

10

海外との交流以外の4学期制の意義 —Gap Termを学生が主体的に計画—

★ボランティア活動の参加

- 早稲田大学ボランティアセンター：毎年9,000名登録して活動—海外でもボランティア活動

★企業・自治体と提携した問題解決型教育の促進

- インターンシップへのより柔軟な参加
- プロフェッショナル・ワークショップへの参加促進

★教職課程における教育実習への柔軟な参加

11

社会貢献力：教育的社会貢献活動

平山郁夫記念ボランティアセンター(WAVOC)：

- 教育支援、人権、環境、音楽、スポーツ分野で支援プロジェクトを展開。
- **タンザニア、ミクロネシア、ブータン、ラオスほか、国際教育交換協議会を通じた国際ボランティア活動を推進。**

＜WAVOCからオープン教育センターへ演習と講義17科目提供＞

- ・ **行動する国際人の育成**
- ・ 自分に出来ること、
社会の在り様について考察



↓

**杉原千畝・奥克彦を生んだ
伝統を継承！
進んで社会貢献する人材育成！**

ICC (国際コミュニティセンター)



学生の声 (体験談) < 1 >

- 経済学研究科修士1年生 (日本人学生):

クォーター制は良い制度だと思う。さらに柔軟性を高めていただくと、もっと良くなるのではないか。できればクォーターごとに成績を教えてもらい、履修計画を練り直して次のクォーターの科目登録が出来ると良いと思う。

今はクォーターとセメスターの科目が混在しているが、すべての科目をクォーター化した方がよいと思う。

- 学部3年生 (留学生):

すべての科目がクォーター化すれば試験のタイミングが分散して学生の負担は減る。韓国では2ヶ月間の兵役が課せられているので、クォーターのどのタイミングでも復学ができればありがたい。

学生の声(体験談) <2>

- 学部3年生(日本人学生):

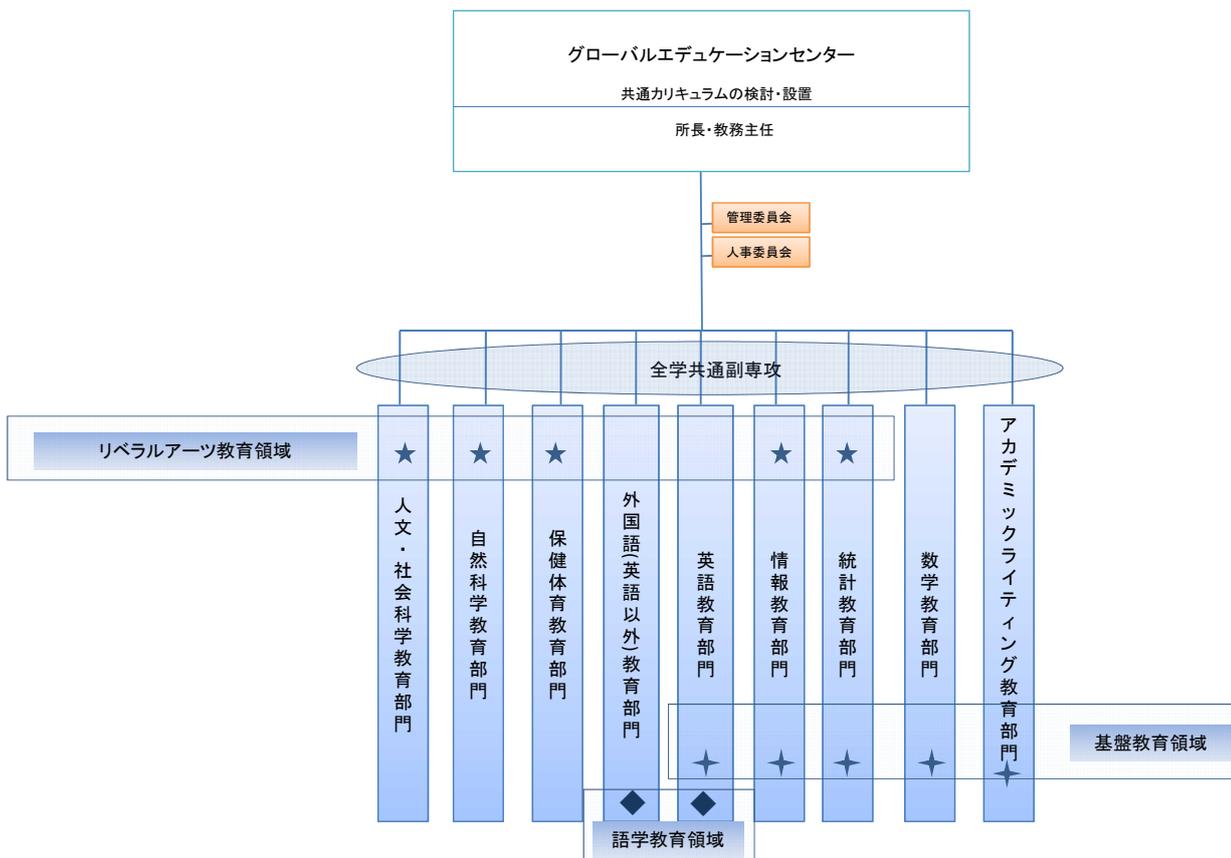
6月あたりは中弛みする時期なので、そこに春学期前半のクォーター科目の試験が行われるのは刺激になって良い。

週2回の授業は密度が高く、一度欠席してしまうとついていけなくなる。そのあたりのフォローアップ体制があるとうれしい。

現時点では、サマースクールやボランティアへ行くことは考えてないがクォーター科目が増えてくれば、そのようなことも視野に入ってくるかもしれない。

留学に行かないまでも、就職活動で忙しいことが予想される時期は履修科目を少なめにして、他の時期に多めに履修するなど、学生の意思で濃淡を付けられるのは、良いことだと思う。

グローバルエデュケーションセンター概要



Tutorial English



Writing Center

- 指導風景



コース・ナンバリング (Course Numbering) の導入 : 2015年度～

- 各学部とGlobal Education Center (GEC) の連携
- 全学に共通の考え方でコース・ナンバーを振る
- 複数学部に共通のナンバーを作成する
- Global Education Center (GEC) と各学部に通の科目 or 各学部間で共通の科目は、コード・シェア (Code-Share) をする
- 各学部のリソースを全学の学生に提供する

19

早稲田大学のグローバル教育 — 4学期制とGlobal Education Center —

★ 4学期制 (Quarter System) の導入と活用

- 4学期制とSummer Session でGlobal教育提供
- 海外から教員を短期間招聘し教育効果向上
- 留学生の受け入れ・送~~り~~出しの促進 (倍増予定)
4,500名 → 9,000名 ・ 1,800名 → 9,000名 (全員)
- 全学全科目のコース・ナンバリング実施 (2015～)

★ Global Education Center における多角的教育

- 国際発信できる人材の育成

20